

Advance Care Planning (ACP) -日本の社会との相性-

宮下淳

総合診療の現場で、ACP の重要性を強く感じる一方で、日本の社会、家族中心的文化、高齢者の自分の意見を言いたがらない文化の中で、ACP が実践できるのか？という疑問を抱いてきた。本講演では、日本の社会心理学的な要因と ACP 実践に関する研究とその結果について論じる。また、日本の社会や風習に適した ACP の定義や行動指針を策定するために行ったデルファイ法研究の概要も紹介する。

特に自分の意思を言葉にすることができなくなりつつある人や言葉にすることを躊躇する人をも包含し、患者本人の価値観を周囲の医療ケアチームや家族と共有するシステムを構築することが課題である。さらに、近年の ACP に対する懐疑的な見方に対して日本版 ACP がどのように応えていくべきかを検討し、今後の ACP の発展の方向性と求められる研究についても考察する。